

手をたずさえて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年7月17日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

教職員からのメッセージ No.2

2学年

「ピンチはチャンス」この言葉ほど、現在の暗い状況に希望を見いだす言葉は無いと思います。これまでも人類は何度も未知のウイルスと戦い、多くの大切な命が失われました。今回も同様です。しかし、人類はけっして負けたままではいませんでした。様々な医学的な研究や新たな工業製品の開発など、その時代の最先端の知恵と技術を活用し乗り越えてきました。今年は中体連をはじめ、様々な行事が中止され、「いつものこと」が「いつものように」できないつらさがあります。しかし、だからといって愚痴をこぼしたり、後ろ向きに考えたりばかりしてはいけません。いつもと違う厳しい状況の時だからこそ、「これまでにない」ことを発見するチャンスがあります。それは何か、どこにあるのか。その答えはそれぞれの人の中にあります。100人いれば、100個の答えがあります。こんな時こそ、「できないことばかり考える」のではなく、積極的に「できることを見つける」気持ちを持つことこそ、一番大事なことだと思います。皆さん一人一人が答えを見つけられることを期待します。



(2年主任 横山岳彦)



担任している2年1組の授業で、先日、「なぜ学ぶのか」というテーマで学習をしました。その中で、進路の教材に掲載されていた「人間には固有の能力があり、それを生かして社会で活躍する。自分がどんな能力をもっているかを見つけるために私たちは学ぶ。多くのことに挑戦する中で自分の可能性を発見できる。それが許されるのは学生時代である。」という言葉を紹介しました。自分は何が得意なのか、どんな力をもっているか、学生時代に多様な学習をすることでそれを見つけていくんだよ、と。だから、今はなんでも積極的に挑戦しよう、と。それを聞いて、授業の最後に「これからは、自分の将来のためだと思ってたくさんのごとを学んでいきたいと思いました。そう考えると『先生』という職業はすごいと思いました。」と書いてくれた生徒がいました。今学ぶことの大切さを素直に受け止めてくれたことに嬉しさを感じたとともに、教師としての仕事の責任を改めて感じさせられたことばでした。「こんな状況だけどががんばろう」「がんばって」と、子どもたちは言われています。でも、教師である自分が、がんばらせる責任を忘れずに、いっしょにがんばっていきたいなと思います。(2年1組担任 小林桂子)

2020年にまだ東京オリンピックが開催される予定だった頃、衝撃的なニュースを目にしました。それは、池江璃花子選手の白血病というニュースでした。金メダルを獲れるくらい実力のある選手が…。どれだけ残念な思いをしているだろうと考えると、想像を絶しました。その後の池江選手は、髪が短くなりながらも治療に専念し、2024年のパリ五輪での復活を目指しているということです。今年は中体連もなくなり、少なからず池江選手と同じような状況にあると思います。今まで仲間と共に流した汗は一生忘れることのできない大切な思い出です。前へ、前へ！(2年2組担任 浅野 稔)



学校が再開され、あたり前の生活を取り戻そうとしている中、一番ショックが大きかったのは中体連の中止、代替大会の中止でした。本来なら県中大会出場を目標に、3年生中心に縦横無尽にコートを駆けめぐるはずだったのにと感じてしまいます。さらには頑張ってきた3年生が達成感や充実感に包まれて引退するはずであったのに…。先生方もみなさんの活躍をとっても楽しみにしていました。残念でなりません。みなさんの方が悔しい思いでいっぱいですよ。でも決して投げやりにならないで下さいね。つらい経験も悲しい経験も、無駄な経験は何一つないのです。すべてがこれから生き抜いていく人生の糧となります。今は冬の寒さにじっと耐え、あたたかくなった春に満開の花を咲かせる桜のように、自分の幹を太く、大きくして、自分だけの最高にすてきな花を咲かせましょう!!入学時からずっと見守っているみなさんは、明るくて元気なことがすてきな所です。自分を見失わず頑張って下さいね！いつも応援しています。

(2年3組担任 橋本まゆみ)

今年度は休校から始まり、分散登校を経て、通常の学校生活スタートという流れでした。「活動できない」という状況から「活動できる」という状況の変化にうれしさを感じた1学期だったと思います。これからも感染症対策を考えながら活動することはもちろんですが、少しずつ自分の力を高めることを目標にした活動をしていきましょう。

これは皆さんへのメッセージですが、自分にもあてはまることだと考えています。一緒に高い目標をもって勉学に励みましょう。(2年副担任 鈴木秀希)



「人間万事塞翁が馬」

生徒へのメッセージということで、そりやコロナがらみだろうと思い、浮かんできた言葉である。コロナのことで、本当に心があまり揺れなかった自分がある。年のせいである。経験のせいでもある。

生徒諸君よくよするな前を向け、これからのことはすべて未来じゃないか。

昔、中国の北辺の塞(とりで)のそばに住んでいた老人の馬が胡(こ)の地に逃げたが、数ヶ月後、胡の駿馬(しゅんめ)を連れて帰ってきた。その老人の子がその馬に乗り落馬して足の骨を折ったが、おかげで兵役を免れて命が助かったという故事。(2年副担任 佐々木秀人)

巷には、簡単に手の届くところに、星の数ほど自分の心を打つ素敵なメッセージがあふれています。ですから、今、自分に最も必要なメッセージや様々な手法で表現された言葉や作品を、自分の心の支えにすれば良いのだと思っています。人間として、まだまだ未完成で未熟な私が、皆さんに送るメッセージなどたいしたことではありません。ただ二つだけお伝えします。一つ目は、自分のミッションを背負い、個性という強い光を放ち、今を精一杯生きてくれてありがとう。二つ目は、自分が誕生する以前にすでにそこにあり、自分の消滅後の未来にもそこに存在し続けるであろうものたちのことを、ときには想像してみたいこと。このものたち(例えば、樹齢千年を超える樹木や手つかずのアラスカの山々と大地、そして満天の星など)の時間の流れは、人間の時間の流れとは異なっているようです。このものたちのことを考えるとき、自分の悩みや苦しみが少ない視点から見えてくるかもしれません。私は、今、同じ時代(とき)を共に生きる皆さんとの出会いに、心からの感謝しかありません。(友垣1担任 佐藤文恵)



※ 4学年の先生方(1~3学年以外の教職員)のメッセージは、次のNo.17に掲載します。お楽しみに!!

インターネット犯罪への対応を学びました!

SNS教室実施

7月15日(水)6校時には、郡山警察署生活安全課の渡部裕絵様をお招きしてSNS教室を実施しました。放送による講話で、ネット犯罪とその対処の仕方についてのお話でした。具体的な事例をまじえての分かりやすい内容でした。スマホ、携帯、タブレット、コンピュータ等のネット機器はとても便利なツールです。しかし、使い方を一歩間違えると、大変危険な凶器にもなり得るということです。ネット機器を持ったら、持っ方としての大きな責任があるということです。

講話の最後に、福島県警がつくったネット機器利用時の約束6か条「あとがこわい」の話がありました。「あ(会わないで)、と(撮らないで)、が(画像を送らないで)、こ(個人情報を載せないで)、わ(悪口を書き込まないで)、い(いじめないで)」。

心にしっかりと留めて、犯罪を起こさない、犯罪に巻き込まれないようにしていきましょう。



第3学年保護者説明会 開催



7月15日(水)には、3年生の保護者の皆様にご参集いただき「修学旅行についての説明会」を開催しました。多くの保護者の方々が参加されました。JTBの担当者にも同席いただきました。新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、1泊2日の山梨県河口湖方面という行き先変更・規模縮小による実施としました。極力他の人との接触の機会を少なくすること、受け入れ側と学校側の感染症対策を徹底すること、医療機関や保健所等との連携による緊急時の対応を万全にすることなどについて説明していただきました。まだまだ予断を許さない状況ではありますが、学校ならではの学びを大切にし、生徒の思い出づくりに繋がたいと考えています。今後も綿密な情報収集を行いながら準備を進めていきます。無事実施できることを祈るばかりです。